

■ワークショップ 7 ■

当事者研究風に『困りごと』を哲学対話

キーワード：重度障害者とのコミュニケーション、当事者研究、哲学対話

堀田利恵子（鎌倉哲学カフェ、学習会サロン）

水谷みつる（哲学ドラマ・コレクティブ、こまば当事者研究会）

学習会サロン

鎌倉哲学カフェでは、これまで年に一回にペースで、障害児・者の当事者活動のグループ「学習会サロン」で当事者同士の哲学対話を開催させていただいてきました。

学習会サロンの当事者メンバーは、全員が自力で話す事ができない重度障害者ですが、「介助付きコミュニケーション（指談、Facilitated Communication、その他）」を使って、意思疎通をする人たちです。「哲学カフェ」の回を重ねるごとに、当事者から「メンバー以外の人たちとも対話をしてみたい」という要望が出て来たこと、またこれもかねてから当事者たちから要望があった「当事者研究」を実施するにあたり、一般の方にも入っていただいてアレンジしてみてもうどうだろうと思い、半ば実験的に行ってみたところ、思ってもいなかった「副効用」があるように思われました。というのは、一見して健常に見える人でも、見えない障害を持っていたり、そうでなくてもなんらかの悩みを抱えていたりするものなので、悩みの「当事者」として同じ位置に立つ事で、ハンディが有る／無いという非対称の関係に陥ることがなく、かつお互いになかった視点で物事を眺めることができるのです。まだ始めてから間もない取り組みですが、可能性として、大人／子ども、教師／生徒、親／子、女性／男性、上司／部下 などの集団でも、双方向的な対話が可能になるように思われます。

<当事者研究とは>

障害や疾患に限らず、さまざまな「困りごと」を抱えた当事者が、自ら研究の主体となって、困りごとの構造（＝苦勞のメカニズム）を解き明かしていく実践です。自身の抱える「弱さ」を情報公開し、仲間と共有・研究することで、人とのつながりを取り戻していく試みでもあります。2001年に北海道の「べてるの家」という精神障害当事者のコミュニティで始まり、今では全国で行われています。

（ほりた・りえこ）2012年より神奈川県鎌倉市で「ゆっくりと考え、聞く。そして変わる」をモットーに、様々なテーマで哲学対話を行う「鎌倉哲学カフェ」を主催。都内での出張開催、他の哲学カフェへの運営協力も多数行う。<https://www.facebook.com/kamakuraphilosophycafe/>

（みづたに・みつる）元美術館学芸員。健康上の理由で退職した後、大学院に在籍しながら、療養に努める。そのなかでべてるの家と当事者研究に出逢い、実践を始める。現在は、東京大学 UTCP の研究協力者として「哲学ドラマワークショップ」の企画などに携わる。

【学習会サロン】2009年より新宿を中心に障害児・者の当事者活動を行う。言葉話すことのできない重度障害児・者のコミュニケーション手段を考え、自立に向かつて様々な活動を行い、その情報を発信している。<http://gakushukai-salon.sakura.ne.jp/>